

【別添2】（様式例1）

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価 校

岐阜県立大垣北高等学校

学校番号

21

1 学校教育目標	人間尊重を基調とし、智・徳・体の調和のとれたたくましく豊かな人間性を育み、高い志とグローバルな視野をもって人類・社会に貢献できる有能な人材を育成する。そのため、“誠実・友愛・努力”を本校の生活信条とし、その具現に努める。					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い知識と教養をもち、グローバルリーダーとして国際社会の平和と発展に貢献できる生徒 豊かなコミュニケーション能力と高い倫理観をもち、多様な人々と協働することができる生徒 主体性と積極性をもち、自らが考えて地域や国の未来を切り拓いていくことができる生徒 		
3 現状の分析	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒、保護者ともに教員の授業に対する信頼が厚い。 ○新型コロナウイルス感染症防止策および今後を見据えた教育環境の整備。 ▲グローバル人材に必要な資質、能力を育成するための総合的な探究の時間のさらなる工夫。 ▲教職員の働き方についてのさらなる見直し。 					
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務が月45時間を超える超過勤務職員の存在。（学校経営） ・生徒の主体的な学習態度の育成と新学習指導要領に基づく観点別評価の充実。（学習指導） ・進路意識の醸成に繋がるキャリア教育の充実。（進路指導） ・危機管理マニュアルを遵守した初期始動と組織的な対応の徹底。（生徒指導） 					
5 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ◇働き方改革を推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の適切な対応策を講じる。 ◇授業でのICT機器活用やオンライン学習支援等の取組を通して、生徒の主体的学習態度と教員のICT能力を培う。 ◇キャリア教育を通して、高い志と向上心を育成し、個々の生徒の進路実現を図る。 ◇心身共に健全で品格のある生徒の育成を図るために、生徒にとって安心安全な環境を整備する。 					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
学校経営	①勤務時間の弾力的な運用を積極的に活用するとともに、ICT機器を使った業務の簡素化、部活動や補習の見直し、常に最終退校時刻を見通した校務運営、勤次郎の正確な打刻等により、教員の働き方改革を推進する。	①教員の時間外勤務は、月45時間、年間360時間以内	①勤務時間のスライド、週休日の振替、4週間単位の変形労働時間制を積極的に活用できた。ICT機器による連絡などで業務の簡素化を継続した。「勤次郎」による正確な打刻による時間外勤務の分析することができた。多くの教員が19時までに退勤できているが、遅くなる教員も一定数	B	<ul style="list-style-type: none"> ○スライド勤務や勤務の割振変更を活用する職員が増加した。 ○19時の退勤時刻と10分早帰りを意識する職員が増加した。 ▲超過勤務の平均時間が昨年度比で増加し、一昨年 	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>

	②新型コロナウイルス感染症の正確な理解と適切な行動変容を生徒に啓発するとともに、健康観察や消毒、換気を徹底する。学校行事では、感染防止の意識づけや感染防止体制を徹底して実施する。	②感染症クラスターを発生させない。	いる。 ②全職員の協力のもと、感染防止対を推進することができた。学校行事を一部集会形式に戻したが、感染拡大を防ぐことができた。	A	度並みとなった。 ○り患者が0になることはほぼなかったが、校内における生徒間の感染と判断できるものはなかった。	
学習指導	①生徒の主体的な学習態度と教員のICT能力を培うために、教材や指導法の改善を図る。タブレットやGoNet等、校内のICT環境を効果的に活用することで、「グローバル探究実践事業」として探究的な学びを推進する。	①ICT機器を効果的に用いた教材開発や指導法の改善により、生徒の深い学びを実現する。	①教員・生徒共にICT機器を自然に取り入れ、授業、家庭学習、通常の学校生活の中で有効に活用することができた。 タブレット使用ルールも定着してきた。	A	○ICT機器の運用やMetaMoj iの活用においても、県下で先頭に立っており、多くの学校の範となった。 ○観点別評価をスムーズに導入することができた。 ▲ICT機器の活用による影響を長期的な視野でも考察していく必要がある。	Ⓐ B C D
	②新学習指導要領の教育課程と観点別評価方法についての理解を深め、全学年の実施に向けての準備を行う。	②新学習指導要領の教育課程を基に、本校における観点別評価を着実に導入していく。	②観点別評価について、本年度の1年生からスムーズに導入することができた。	A		
進路指導	①「進路のしおり」の内容を更に充実させ、積極的に活用することを通して、生徒一人一人が自己の進路意識を醸成する。	①「進路のしおり」を更に活用し、生徒の進路意識の醸成に繋げるだけでなく、学校推薦型選抜や総合型選抜に効果的に活用する。	①「進路のしおり」を活用し、進路に関する知識を得るだけでなく、「学期の計画と振り返り」「学校行事について」「卒業に向けて」といったページに記録を残すことができた。また、進路情報をTeamsや進路講演会・各種ガイダンス・学年集会等で紹介し、進路意識の醸成に繋げることができた。	B	○「進路のしおり」をLHR等で活用することができた。 ○コロナ禍であったが、夏季補習や土曜特別講座が実施し、発展的な学習をサポートできた。 ○スタディサプリをさらに利用することができた。	A Ⓑ C D
	②組織的・定期的な面談や、スタディサプリを効果的に活用した生徒の主体的な学習等を通して、生徒の向学心や進路意識を高める。	②最難関大学20人以上、難関大学50人以上、国公立大学230人以上の合格を達成する。	②土曜特別講座に加え、スタディサプリを利用し、生徒の主体的な学習を推進することができた。生徒との面談などによって学習に対する意識や進路意識を高めることができた。	B	○Teams等を活用して今まで以上に多くの進路情報を適時提供することができた。 □大学の合格実績については、年度末に確定する。 ▲探究活動とキャリア教育を結びつける指導があまりできていない。	
生徒指導	①効果的な情報モラル教育や人権教育等を行い地域や世界の様々な事象に関心をもち、解決策を模索できる。また、生徒の人権意	①地域や世界の人権問題に関心をもち、解決策を模索できる。また、生徒の人権意	①外部講師による講話によって、関心を深めより探求する意欲が向上した	B	○いじめに関しては組織で対応することができた。	A

<p>もに、本校のいじめ防止対策の基本方針を適切に運用し、いじめの未然防止に努める。</p>	<p>識を向上させ、いじめの未然防止に努め、生徒が安心・安全に学校生活を送れるようにする。</p>	<p>。「いじめに関するアンケート」など調査の結果を受けて、迅速に対応することができた。</p>	<p>▲心に悩みを抱えた生徒、不登校傾向にある生徒に対する支援が組織で共有されていない。</p>	<p>◎B C D</p>
<p>②本校の地域的特性や生徒の特質に応じて、想定される危険を明確にして「危機管理マニュアル（非常変災時・不審者対応）」の見直し・改善を図り、生徒の安全を確保する。</p>	<p>②「危機管理マニュアル（非常変災時・不審者対応）」の見直しを図ることで、適切かつ具体的な対応策を、教職員や生徒に提示する。</p>	<p>②危機管理マニュアル（非常変災時・不審者対応）」の見直しを行い、学校安全課へ提出した。各分室へ、印刷を、教職員に提示できた。</p>	<p>B</p>	<p>▲「危機管理マニュアル（非常変災時・不審者対応）」の保護者や生徒への周知が出来なかった。</p>

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月3日

<p>1 学校経営 採点システムの導入のような、効果的なシステムの導入による働き方改革の推進ができることは良い。 勤務時間における部活動指導の時間が大きな割合を占めているので、指導の外部委託や活動時間に関するルールの遵守などによる勤務時間管理を進め、働き方改革を進める必要がある。</p> <p>2 学習指導 ICTを活用した学習活動や協働的な学びの機会、オンライン等での学習支援などにより、生徒の理解を高めようと努力している。整備されたタブレットの学校や家庭でのより効果的な活用方法を引き続き検討するとともに、使用方法や使用上のルールについて更に周知徹底できることが望ましい。</p> <p>3 進路指導 土曜特別講座について、部活動指導などとの役割分担をしている。今後も生徒のニーズや、教員側の働き方改革の面も継続して考慮する必要がある。</p> <p>4 生徒指導 心のアンケートの実施、スクールカウンセラーの派遣に加え、日常的にスクール相談員や養護教諭が生徒の相談にのるなど、心の不調を訴えている生徒に対する体制づくりができています。</p>

13 来年度に向けての改善方策案

<p>1 学校経営 ① スクールポリシーの3つのポリシーを全職員で共有し、教科活動・探究活動・課外活動においてその具現化のために、職員一同協力して取り組む。 ② ICT 機器を使った業務の簡素化による教員の働き方改革および新型コロナウイルス感染症の感染防止、持続可能な教育環境の整備を継続的に進める。</p> <p>2 学習指導 ① 一人一台のタブレット、校内で整備されたICT環境を効果的に活用することで、生徒の主体的な学びを推進し、一層の学力向上を図る。 ② 本年度から1年生で実施されている観点別評価について、来年度以降の拡大に向けて明確な規準を作成し、教員・生徒・保護者で共通認識を持てるように努める。</p> <p>3 進路指導 ① 大学入試問題等を分析し、求められる能力を伸ばすために工夫を凝らした授業、土曜特別講座、放課後補習、夏季補習を展開する。 ② 探究推進部と連携してキャリア教育の充実を図るとともに、難関大学を志望する生徒を中心に、効果的な説明会や進路面談の場を設け、生徒の向学心や進路意識を高める。</p> <p>4 生徒指導 ① 18歳成人によって校則の改訂や内規の見直しが必要かどうかの検討 ② SOS の出し方教育など悩みを抱えた生徒への組織対応を図る。生徒・職員の危機管理意識の高揚と学校安全（交通安全、生活安全、災害安全）教育の充実を図る。来年度は、「危機管理マニュアル（非常変災時・不審者対応）」の保護者や生徒への提示方法を検討し、実施したい。</p>
--